

ルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持スル官許
公文ノ寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書トテ添ヘ其營轉
廳ヘ願出内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘ
シ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子
ヲ派出シテ行商テ爲サシメント欲スルハ其由ヲ管轄廳
ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スルハ必ス之ヲ所持ス可
シ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ

滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ン
ト欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ
第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出
之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月ト爲
スヘシ

第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害
（明治十一年九月十九日第二十七號布告ヲ以テ）品ナルヲ
「有毒」ヲ「有害」ニ改ム第十九條但書モ亦同シ）品ナルヲ
更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコアル
時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアル可シ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、キハ其請賣

者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第拾二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル

片ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳へ届ケ出再ヒ之ヲ願受シへ

シ

第拾三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連

印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第拾四條 (明治十年十二月廿八日第八十九號布告ヲ以テ左

ノ如ク改正ス) 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續

人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳へ鑑札名前

書換ヲ請フヘシ

第拾五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタル片ハ營

業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納ス可シ

第二章

第拾六條 (明治十四年四月二十六日第二十六號布告ヲ以テ

左ノ如ク改正ス) 賣藥營業者ハ左ノ通税金并ニ鑑札料ヲ

上納ス可シ

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ケ年 金貳圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

第拾七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受

シル片ハ其鑑札料ノ半高テ納ムヘシ

賣藥規則

第拾八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一月三十一日限リ鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳へ上納ス可シ

第拾九條 税金六月以前免許ノ者ハ前年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ前年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルテ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ

第三章

第二拾條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セ

シムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二拾一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二拾二條 免許ヲ受ケヌシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ忘説ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ

付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二拾三條（明治十四年四月二十六日第二十六號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二拾四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付キ五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二拾五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製

藥及ヒ其賣得金ヲ没シ藥劑一方ニ付キ百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二拾六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○藥品取扱規則

○明治十三年一月十七日第一號布告

第一條 凡ソ藥品中最モ注意シテ精撰スヘキモノヲ第一類（注意藥）トシ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直チニ生命ヲ傷害スルニ足ル可キモノヲ第二類（毒藥）トシ其性

○藥品取扱規則

効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ
來スヘキモノヲ第三類(劇藥)トス其類目別表ノ如シ

但新タニ發見及ヒ舶齎シタル藥品ハ先ツ最寄司藥場ニ
出シテ試験テ受ケ其告示スル所ニ從フヘシ

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラズ若シ精良ナ
ラサルキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ
其粗製品(故意ニ他物ヲ混シタルニアラズ全ク化學製造上
或ハ採収ノ際其法疎漏ニシテ純精ナラサルモノ、類ヲ云
フ)ハ之ヲ藥用トシテ販賣スヘカラス但藥舖ニ於テ自ラ
其良否ヲ鑑別シ能ハサルキハ最寄司藥場ニ請ヒ無費ニテ

其試験テ受ケルヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工場上等ノ用
ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣
スルヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合ス
ルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用
ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスル
ニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス
但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供ス可シ且本
條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノモノ其他不安心ト認

○藥品取扱規則

ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルキハ其器若クハ包紙ヘ必ス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若クハ授與スルキハ本文ノ外更ニ適應ノ器ニ入レ密封封印ス可シ

第六條 第二條第四條本文ニ背戾シ又ハ贗品故意ニ他ノ物品ヲ本品ニ混合シテ其容量重量ヲ増スモノ若クハ他ノ物品ヲ以テ本品ニ擬シ或ハ名箋ヲ變換スルモノ、類ヲ云フ

敗品(總テ酸敗風化或ハ潮解シ若クハ黴菌ヲ生シ陳敗ニ傾ク等ニ因リ其藥品本性ノ効力ヲ變シ或ハ其効力ハ失セラルモノ、類ヲ云フ)ヲ販賣スルモノハ其贗敗品ヲ没入シ三十圓以上五百圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年半以下ノ懲役第一條但書第四條但書及第三條第五條ニ背戾スルモノハ一圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ一日以上二十日以下ノ懲役ヲ科シ又ハ罰金懲役ヲ併セ科スヘシ
第七條 右ノ罰則ヲ再犯スルモノハ其本罰ノ最多限ニ貳倍以下ノ罰ヲ科シ三犯スルモノハ本罰ノ最多限ニ三倍以下ノ罰ヲ科スヘシ

○賣藥印紙規則

(類目表ハ略ス)

▲明治十三年五月十五日第二十三號布告

石炭酸其他劇藥ハ本年(一月)第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照ラシ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布告ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

○賣藥印紙稅規則

○明治十五年十月廿七日第五十一號布告

第一條 賣藥ニハ心ラス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者

ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

一定價一錢迄	印稅	壹厘
一同 貳錢迄	同	貳厘
一同 三錢迄	同	三厘
一同 五錢迄	同	五厘
一同 拾錢迄	同	壹錢
以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス		
第二條 印紙種目ハ左ノ如シ		
壹厘	淡	黑色
貳厘	青	色

○賣藥印紙稅規則

三	厘	黃	色
五	厘	茶	盤
壹	錢	赭	色
貳	錢	綠	色
三	錢	濃	青
四	錢	橙	黃
五	錢	紫	色
拾	錢	深	紅
			色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消用スヘシ

但シ印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消用スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限り賣捌シモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○賣藥規則

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌シ者ハ貳圓以上貳十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒収ス其情ヲ知テ之レニ買受ケタル者ハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒収ス

▲明治十五年十一月十七日第二十四號布達

本年(十月)第五十一號布告賣藥印紙稅規則施行ニ付テハ賣藥營業者ニ於テ必ラ六印紙ヲ貼用スヘキ筈ノ處該稅則施行以前既ニ請賣者又ハ行商者ニ渡シタル賣藥ハ此ノ際ニ限リ

請賣者又ハ行商者ニ於テ印紙ヲ貼用スルヲ得ヘシ

○煙草規則

○明治八年十月四日第百五十號布告

第一則 煙草營業稅

第一條 一煙草賣買營業ノ者ハ其管廳ニ申出營業鑑札ヲ受ケ年々左ノ通稅納致スヘキ事

▲明治八年十一月十日第六十五號布告十年二月七日第十五號布告ヲ以テ但書左ノ通り改正ス
但煙草耕作人ニシテ自作ノ煙草ヲ賣渡ス而已ニテ煙草ヲ請賣セサル者ハ此限ニマラス

○煙草規則

煙草卸賣營業稅

一ヶ年 金拾圓

煙草小賣營業稅

同 金五圓

但卸賣トハ煙草商人へ賣渡スチ云フ又小賣トハ自用(自己ノ所用ニ供シ賣用ニ致サ、ルモノ)ノ人へ賣渡スチ云フ

第二條 一卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣營業鑑札願受ケルニ及ハスト雖モ小賣營業鑑札ヲ受ケ卸賣ヲ兼候儀ハ不相成候事

第三條 一最初營業鑑札下渡候節手数料トシテ金貳拾錢相納ムヘキ事

第四條 一營業鑑札ヲ受ケタル煙草商人へハ仕入鑑札其管應ヨリ相渡候條煙草買入ノ節ハ必ズ相携へ可申右鑑札料ハ二枚ニ付金拾錢宛相納ムヘキ事

但仕入鑑札ハ一戸一枚ニ限リ候儀ニ無之素ヨリ買入ノ節必携ノ品ニ付何枚ニテモ入用丈ケ願ニ依テ相渡スヘキ事

第五條 一營業稅上納ノ儀ハ年々兩度ニ區別シ半ヶ年分宛區戶長へ取集メ其管廳へ可相納事

但其年前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限其管廳へ可相納事

第六條 一新規營業免許ノ者六月以前ハ全年分七月以後ハ
半年分營業免許ノ節直ニ營業稅相納廢業ノ者七月以後ハ
全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

但廢業ノ者ハ其節直ニ營業鑑札仕入鑑札ニ返納致スヘ
キ事

第七條 一營業鑑札若シ水火盜難過誤等ニテ失却候節ハ其
旨管廳ヘ届出新規鑑札申受クヘキ事
但爲手數料金二十錢相納ムヘキ事

第八條 一營業鑑札仕入鑑札ハ貸借決シテ不相成候事

▲明治八年十一月十日第百六十五號布告ヲ以テ但書左

ノ通り改正ス。但改名代換轉居等ノ節ハ其旨管廳ヘ申
立候ハ、鑑札引換可相渡手數料トシテ營業鑑札ハ金二
十錢仕入鑑札ハ金拾錢相納ムヘキ事

第九條 一卸賣營業ノ者ハ煙草卸賣所ト書記シ又小賣營業
ノ者ハ煙草小賣所ト書記シタル看板ヘ免許鑑札ノ番號書
加ヘ戶外ヘ掲クヘキ事

但卸賣小賣ヲ兼候者ハ煙草(卸小)賣所ト書記シ看板テ
掲クヘキ事

▲明治九年四月廿六日第五十號布告ヲ以テ第十條ヲ追加セ
ラル即チ左ノ如シ

第拾條 營業鑑札ヲ受タル煙草商人ハ出賣ノ爲メ願ニ任
 ゼ出賣鑑札其管轄ヨリ相渡候除出賣ノ節ハ必ス相携ヘ可
 申右鑑札料ハ一枚ニ付キ金拾錢ツ、相納ムヘシ尤モ右營
 業商人一名一枚ニ不限何枚ニテモ可相渡事

但遺失其他改名代換轉居ノ節ハ鑑札引換相渡候條手數
 料トシテ更ニ金拾錢相納ムヘシ

第二則 製造煙草印稅

第一條 一製造煙草ハ(玉作箱詰紙包束作疊フ紙等)各種ノ
 大小斤目ニ不拘自用ノ人へ賣渡ス節ハ總テ其代價ニ從ヒ
 煙草印紙貼用ノ上賣出スヘキ事

但葉煙草ハ總テ印紙相用ユルニ及ハサル事

第二條 一製造煙草印紙種類並ニ定價左ノ通候事

長印紙(二十五切全紙一枚) 定價貳錢五厘

印紙 全 五厘

印紙 全 壹錢

印紙 全 五錢

印紙 全 拾錢

第三條 一製造煙草印紙割合左ノ通

煙草代價	印稅二厘	且長
五錢未滿	印紙	
全五錢以上	印稅二厘	
十錢未滿		

同十錢以上	印稅一錢
二十錢未滿	
同二十錢以上	印稅三錢
三十錢未滿	
同三十錢以上	印稅三錢
四十錢未滿	

右以上總テ之ニ準シ印稅增加スヘシ

第四條 (明治八年十二月廿八日第二百五號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 一 烟草印紙貼用方罫圖ノ如ク賣主ニ於テ印紙貼用シ其全面ノ中心ヨリ端ニカケ實印或仕切印ヲ押スヘシ

第五條 一 烟草印紙ハ烟草印紙賣捌所ト大書シ官ノ燒印アル看板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止

ノ事

第六條 一 仕入鑑札所持ノ烟草商人ヘ賣渡ス製造烟草ニ限リ印紙貼用ニ及ハス其仕入鑑札ヲ証トシテ賣渡スヘシ尤モ鑑札所持致サ、ル者ヘハ無印紙ノ製造烟草決シテ賣渡不相成事

第三則 賞罰例

第一條 一 卸賣營業鑑札ヲ受ケス營業致候者ハ一ケ年營業稅ノ七倍料科可申付事

第二條 一 卸賣營業鑑札借受ケ營業致候者ハ前條同様ノ料科申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一ケ年營業稅ノ五倍

○烟草規則

料料可申付事

第三條 一 小賣營業鑑札ヲ受ケテ營業致候者ハ一ケ年營業稅ノ五倍料料可申付事

第四條 一 小賣營業鑑札ヲ借受ケ營業致候者ハ前條同様ノ料料申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上ケ一ケ年營業稅ノ三倍料料可申付事

第五條 一 仕入鑑札所持致サスシテ無印紙製造煙草ヲ買受候歟又ハ右所持致サル者へ無印紙製造煙草ヲ賣渡ス者ハ各脫稅高ノ二十倍宛料料可申付事

第六條 一 仕入鑑札借受候者並貸渡候者ハ其鑑札取上ケ枚數ニ應シ鑑札料ノ十倍宛料料可申付事

第七條 一 煙草印紙ヲ用ヘキ製造煙草ニ印紙ヲ貼用セス自用ノ人へ賣渡ス者ハ脫稅高ノ二十倍料料可申付事

第八條 一 煙草印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ稅減高ノ十倍料料可申付事

第九條 一 官許印紙賣捌所ノ外ニ於テ煙草印紙賣捌致ス者ハ其品取上ケ既ニ賣捌タル印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ印紙代ノ五十倍料料可申付事

第十條 一 一旦相用ヒタル煙草印紙ヲ剝取リ再用スル者或ハ之ヲ賣買スル者ハ五十圓以下ノ料料可申付事

○煙草規則

第拾一條 一煙草印紙ヲ贗造スル者又ハ贗造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ科料可申付事

第拾二條 一前數條ニ掲ケル所ノ犯人ヲ見届ケ訴出ル者アルハ事實取札ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシ其科料金ノ半高相與候事

▲明治九年四月廿六日第五十九號布告ヲ以テ第十三條ヲ追加セラル即チ左ノ如シ

第拾三條 出賣鑑札ノ貸借ハ不相成借受並貸渡シタル者ハ其鑑札取上枚數ニ應鑑札料十倍ノ科料申付ヘシ右鑑札ヲ所持セズノ出賣ヲ爲ス者ハ鑑札料二十倍ノ科料可申付事

▲明治十五年十二月二十七日第六十三號布告ヲ以テ左ノ如ク改定ス

明治八年(十月)第百五十號布告煙草稅則別紙ノ通改定シ來十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年(二月)第拾四號布告第一項ハ廢止ス

烟草稅則

第一章 煙草營業

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

煙草仲買人

○烟草規則

煙草小賣人

第二條 刻煙草又ハ卷煙草等ヲ製造スル者ヲ煙草製造人ト
ス但賃銀ヲ受ケテ他ノ製造人ノ煙草ヲ製造スル者ハ此限
ニ在ラス

第三條 未製造ノ煙草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者へ賣
渡シ及製造煙草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者へ賣渡ス
者ヲ煙草仲買人トス

第四條 製造煙草ヲ自用者へ賣捌ク者ヲ煙草小賣人トス

第二章 營業鑑札

第五條 煙草營業者ハ管轄廳へ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但

製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ

第六條 煙草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣
ヲ爲ストキハ管轄廳ニ願出仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自
之ヲ携帯ス可シ

第七條 煙草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納
ム可シ

煙草營業鑑札料 壹枚ニ付金貳拾錢

煙草仕入鑑札料 壹枚ニ付金拾錢

煙草出賣鑑札料 壹枚ニ付金拾錢

第八條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ之

○煙草規則

五匁	二厘	三厘	四厘
十匁	四厘	六厘	八厘
十五匁	六錢	九厘	一錢二厘
廿匁	八厘	一錢二厘	一錢六厘
三十匁	一錢二厘	一錢八厘	二錢四厘
五十匁	二錢	三錢	四錢
百匁	四錢	六錢	八錢

第拾四條 刻煙草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ

印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ

第拾五條 刻煙草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以テ結束ス可シ

第拾六條 刻煙草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第拾七條 外國ヘ輸出スル煙草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下付ス可シ

第拾八條 煙草印紙ノ種類價格左ノ如シ

印紙	紙	一枚	二厘
帶印紙	黑色	一枚	二厘
同	淡赭色	同	三厘

同	黃色	同	四厘
同	赭色	同	六厘
同	萌黃色	同	八厘
同	淡青色	同	九厘
同	茶褐色	同	一錢二厘
同	淡紅色	同	一錢六厘
同	桔梗色	同	一錢八厘
同	橙黃色	同	二錢
同	老綠色	同	二錢四厘
同	濃黃色	同	三錢

同	黃綠色	同	四錢
同	紫色	同	六錢
同	赤色	同	八錢

第拾九條 煙草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第拾條 印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章 雜則

第二拾一條 刻煙草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

○煙草規則

第二拾二條 煙草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二拾三條 煙草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

煙草製造人

煙草製造帳

煙草仲買人

煙草買入帳

煙草賣渡帳

煙草小賣人

煙草買入帳

第二拾四條 煙草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二拾五條 印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二拾六條 煙草營業者ハ煙草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二拾七條 煙草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ煙草買入高賣捌高製造高并印紙買入高及六月三十

○煙草規則

日ノ煙草并印紙ノ現在高テ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二拾八條 印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高并買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二拾九條 煙草營業者ハ營業ノ標業ヲ戶外ニ掲出ス可シ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三拾條 印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スヲ得ス

第三拾一條 未製造ノ煙草ハ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章 検査

第三拾二條 煙草營業者ノ帳簿及其所持ノ煙草ハ主任官隨時之ヲ検査ス可シ

第三拾三條 検査官吏ハ検査ノ時官ノ印章ヲ携帯シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章 罰則

第三拾四條 營業鑑札ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲ス者ハ營業稅通脱ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ煙草ヲ没収シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三拾五條 煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙

○煙草規則

草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ代價ヲ追徴ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三拾六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脱稅ヲ謀リ若クハ脱稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ届書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三拾七條 煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三拾八條 第六條第拾四條第拾五條第貳拾壹條第貳拾四

條ニ違犯シタル者及第貳拾三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三拾九條 管轄廳ノ許可ヲ得ズシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四拾條 未製造ノ煙草ヲ煙草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四拾一條 第拾三條ノ煙草裝置區分ニ違フ者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

○ 煙草規則

第四拾二條 鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第貳拾五條第貳拾六條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四拾三條 煙草自用者ニシテ未製造ノ煙草又ハ無印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四拾四條 第八條第九條第貳拾七條第貳拾八條ノ届出ヲ怠リタル者及第貳拾九條ニ違犯シタル者壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四拾五條 第貳拾條第貳拾三條第貳拾九條ニ依リ定メタル

ル布達ニ違犯シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
第四拾六條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四拾七條 煙草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○酒造規則

○明治十三年九月二十七日第四拾號布告

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘ

○酒造規則

第四拾二條 鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第貳拾五條第貳拾六條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四拾三條 煙草自用者ニシテ未製造ノ煙草又ハ無印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四拾四條 第八條第九條第貳拾七條第貳拾八條ノ届出ヲ怠リタル者及第貳拾九條ニ違犯シタル者壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四拾五條 第貳拾條第貳拾三條第貳拾九條ニ依リ定メタ

ル布達ニ違犯シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
第四拾六條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四拾七條 煙草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○酒造規則

○明治十三年九月二十七日第四拾號布告

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘ

○酒造規則

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ

之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒

清酒濁酒其他釀造
シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒

燒酎「酒精再溜酒
精」其他蒸溜シタ
ルモノヲ云フ

「符内ノ六字ハ明
治十五年第十七號布
告ヲ以テ加入ス

三類 再製酒

銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ
又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ左ノ如

ク改正追加ス 但シ第三條改正ハ明治十六年十月一日ヨ

リ施行ス

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ

其額左ノ如シ

酒造免許稅

酒造場壹ヶ所ニ付

金三十圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付

金四圓

二類壹石ニ付

金五圓

三類壹石ニ付

金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ

一期トス

○酒造規則

○酒造規則

四〇八

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ左ノコトヲ追加ス

第四條二項三項

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セズ

清酒

百石

濁酒

拾石

一類 清酒濁酒
ニ類 三類
ヲ除ク

五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換テ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換テ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

▲明治十五年三月二十三日第拾七號布告ヲ以テ第一期第二期ヲ左ノ如ク改正ス

○酒造規則

四〇九

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル稅額ノ半數

第二期 七月三十一日限

三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル稅額ノ半數

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル稅額並前納額

ノ殘數

第拾條 造酒ノ石數ハ總テ管廳へ申出テ検査ヲ受クヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ左ノ如ク追加ス

第十條二項

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スルモノハ其節管廳へ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納稅スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二個所以上免許ノ者其一個所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場へ其酒類ヲ移スルハ管廳へ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第拾一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第拾二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類

ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第拾三條 検査未造ノ酒類へ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒

○酒造規則

等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
 第拾四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製（第
 一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類）
 スル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ
 第拾五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ檢
 査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就キテ
 造石税ヲ納ムヘシ

但シ變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製
 成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ
 第拾六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ

直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ

第拾七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ
 應ジ造石税ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シ
 タル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス

第拾八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納
 ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免除ス

第拾九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒
 類ヲ問ハス其仕込タル酒もト其他仕込米及ヒ營業ニ關ス
 ル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二拾條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳へ申

出其容量ノ検査ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二拾一條 酢及ヒ酒もトヲ販賣スルヲ許サス

▲明治十五年三月二十三日第十七號ヲ以テ左ノ通り但書ヲ追加セラル

但事故アリテもトノ不用ニ属シタルモノヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニ在ラス

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス

第二拾二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非サルモノニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒釀場ヲ貸スヲ許サス

第二拾三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與釀與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

検査既済ノ酒類へ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二拾四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二拾五條 造酒 搾リ蒸溜(器)ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封テ請フヘシ

但シ過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルキハ直ニ管廳へ届出

○酒造規則

再封ヲ請フヘシ

第二拾六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數並ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換並ニ見込石數ノ増減等ハ其時々届出可シ

第二拾七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械共總テ管廳へ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二拾八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二拾九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類

及ヒ製造諸器械共沒收シ免許稅額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ

賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併

セ科スヘシ

但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ己ニ賣捌キタル者ハ其代價

ヲ追徴スヘシ

第三拾條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據

テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ

金額ヲ科スヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六拾一號布告ヲ以テ第三拾

○酒造規則

壹條第三拾貳條第三拾四條左ノ如ク改正ス

第三拾一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ

貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當

スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第貳拾壹條但書ノ場合ニ於テハ此限リニ非ス

第三拾二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類

ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但（明治十五年三月二十三日第拾七號布告ヲ以テ但書

ヲ削除ス故ニ畧ス）

第三拾三條 検査未濟ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石

數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三拾四條 第拾四條又ハ第貳拾條ノ届出ヲ怠リタル者第

五條第七條第貳拾八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上九拾五錢

以下ノ科料ニ處ス

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ第三拾

五條以下左ノ如ク追加ス

第三拾五條 第六條第貳拾五條第貳拾六條第貳拾七條ヲ犯

シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第貳拾條ヲ犯シテ検査ヲ受ケサル者ハ貳圓以上貳拾圓以

下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

○酒造規則

第三拾六條 第拾條第二項第貳拾壹條第貳拾貳條第貳拾三條第貳項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

但第貳拾三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三拾七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七拾五條第一項ノ場合ハ此限ニフラス

第三拾八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ)ヲ製造スル者ハ管廳へ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壺石(二種以上製造スル者)ハ其總石數ヲ合算スヲ超ユルテ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ

○酒造規則

製造スルヲ得ヌ

第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得
ヌ

第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損
スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再度又ハ書
換ヲ請フヘシ

第七條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ查
檢スヘシ

第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以
上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械

ヲ沒收ス之ヲ賣捌キクル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三拾七條及ヒ第三
拾八條ヲ適用ス

○醫麴營業規則

○明治十三年九月廿七日第四十一號布告

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醫麴(醸造酒類ノもと)ヲ製造シテ營業セント
欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ
受ケ一期營業稅トシテ左ノ通り納ムヘシ

醫麴營業稅

金五拾圓

○醫麴營業規則

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管應ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管應ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管應ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ第五條

ニ項左ノ如ク追加ス

醫麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管應ニ差出シ書換テ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管應ニ願出再度又ハ書換テ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醫麴賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

○醫麴營業規則

第九條 免許鑑札ハ貸借スルテ許サズ

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醗麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラズ五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一號布告ヲ以テ第十二條以下左ノ如ク追加ス

第十二條 醗麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類醗麴ヲ製造スルヲ許サズ

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ第五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌タル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七拾五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條 醗麴營業者ハ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

○石油取締規則

○明治十四年八月十三日第十號布告

○石油取締規則

第一條 (明治十四年九月二十四日第五拾號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)石油ヲ分テ一トス華氏驗温器百十五度(英語「ホーニン、テスト」ニシテ即チ引火度ノ謂ナリ)以上ノ熱度ニ至ラサレハ引火セサルモノヲ第一種トシ其百十五度ニ達セサルモ引火スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫師化學家藥商工職家ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用ユルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ擴業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ許可ヲ受

クヘシ但シ二類以上兼業スル者ハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 擴業者精製者問屋多量ノ石油ヲ貯藏スル場所及ヒ倉庫精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ニ於テ檢査ノ上認可スルモノトス

第五條 第二種ノ石油ニ問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス但シ販賣ノ時限ハ日出ヨリ日沒迄ノ間トス

第六條 醫師化學家藥商工職家第二種ノ石油ヲ購買スル者ハ其數量及ヒ需用ノ趣意ヲ詳記シタル証票ヲ問屋ニ交付

スヘシ問屋ハ其數量年月日及ヒ買入ノ住所氏名ヲ別帳ニ記載シ其証票ヲ貯ヘ置クヘシ但シ幼年者及ヒ替者蠟者其他不能力ノ者ハ販賣スヘカラス

第七條 警察官吏ハ石油精製所若クハ問屋ニ就テ石油ヲ検査スヘシ其検査ヲ經タルモノニアラサレハ問屋又ハ小賣商ヨリ需用者ニ販賣スルヲ得ス

第八條 検査済ノ石油ヲ家屋内ヘ貯藏スルヲ得ルハ問屋ハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トス小賣商ハ第一種ノ石油三石以内トシ需用者ハ第一種ノ石油二石以内第二種ノ石油五斗以内トス容器ハ都テ金屬製ヲ用フ

ヘシ

第九條 石油ヲ運搬スルキハ其石油タルコト及ヒ其種類ヲ表記スヘシ但シ其積卸ニ必用ナル時間ノ外波戶場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條 此規則ニ背ク者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

▲明治十五年八月十六日第四拾四號布告

明治十四年(九月)第五拾號布告石油取締規則施行日ノ儀更

ニ明治十六年七月一日ト改正ス

○車稅規則

○車稅規則

○明治八年二月廿日第二十七號布告

明治六年(一月)第三拾壹號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅則昨七年十二月三十一日限り相廢シ尤モ遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年(二月)第貳拾壹號布告舂漁船並ニ海川小廻船等船稅規則ニ照準収稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通り相定メ同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事
車稅規則

規一則

- 一 馬車貳匹立以上 壹ケ年稅金三圓
- 一 同 壹匹立 壹ケ年稅金貳圓

一 荷積馬車

壹ケ年稅金壹圓

一 人力車貳人乘

壹ケ年稅金貳圓

一 同 壹人乘

壹ケ年稅金壹圓

一 牛車

壹ケ年稅金壹圓

一 荷積大七大八車

壹ケ年稅金壹圓

一 荷積中小車但大六以下

壹ケ年稅金五拾錢

第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事

但シ從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

○車稅規則

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納税ニ
 破解ノ者ハ七月以後ハ全年六月以前ハ半年分納税候儀ト
 可相心得事

第四則

一右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分宛區戶長へ取集メ
 其管轄應へ可相納事

但前半年分ハ其年七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一
 月三十一日限リ其管轄應へ可相納事

第五則

一荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルベキ事

第六則

一諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脱稅高ノ
 五倍料料タルヘキ事

▲明治八年三月二十四日大藏省乙第四十號達

本年第貳拾七號公布車稅規則中第五則荷積車ノ内耕作一途

ニ相用候車類ハ車稅免除ノ檢印免稅ヲ爲取締一車毎ニ燒

記候上免稅致シ候儀ト可相心得此旨相達候事

▲明治十三年六月十一日大藏省乙第二十三號達

船(商船舩漁船)等車へ修繕ヲ加へ爲メニ稅額ニ増減ヲ生シ

タル片ハ新調ト認メ更ニ該期ニリ相當ノ税金徴收候儀ト可
相心得此旨相達候事

▲明治十三年十月十五日大藏省乙第三十五號達

自轉車ノ儀各地取扱方區々相成居候趣相聞候處右ハ素ヨリ
人力車部中ノモノニ付キ同様課税可致儀ニ候條爲心得此旨
相達候事

○銃砲取締規則

○明治五年正月廿九日第二十八號布告

明治八年六月廿八日第百拾壹號達ヲ以テ銃砲彈藥取締ノ儀

一切内務省へ管理セシメラレ候ニ付從來陸軍省等へ申出ル

トハ都テ内務省へ出サシメ且本則中牴觸ノ箇條ハ都テ廢セ
ラル

第一則

一大小銃並ニ彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致
問敷右定員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可
差遣事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

一府下 各五員

一縣下 各三員

○銃砲取締規則

一 鎮臺本分營下 各一員

但府縣廳下開港等ニアルハ別ニ設ケス

一 開港場

各五員

右免許差遣候商賈ノ姓名住所等京員武庫司へ届クヘキ事

第二則

一 免許商人タリヒ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照ラシ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳へ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司へ可願出事

第三則

一 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥ハ多少テ計セズ買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ者ハ免手形相添毎月其管廳へ差出ス可シ其廳ヨリ毎月十日テ限リ管轄鎮臺へ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司へ差送り可申尤東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四則

一 彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手

○銃砲取締規則

ノ場所へ差置問敷兼テ其地方管廳へ願出差圖ヲ受相圍可
申事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司へ願出へキ事

第五則

一華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲并
彈藥類ヒストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘
々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大坂ハ武
庫司へ持出
別紙銃砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人へ讓與へ候
節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

干支何番 武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置管轄鎮臺へ届出鎮臺

ヨリ東京武庫司へ差送可申事

免許ノ銃類

一和銃四文目八分玉以下

一各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレハ霰彈ヲ用ユルモノ
ハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳へ

○銃砲取締規則

届出其廳ヨリ東京武庫司へ差出可申
東京大坂ハ所持ノ者ヨリ直チニ武庫司へシ
萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官へ尋出候得ハ
検査ノ上免許ノ証印ヲ据へ可相渡事

第六則
(明治六年第貳拾五號布告)
鳥獸獵規則ヲ以テ發ス

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管廳へ相願管轄鎮臺へ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り検査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣

ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳へ爲差出其廳ヨリ東京武庫司へ可差出事
但東京大坂ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司へ可届出事
右之通ニ候事

▲明治五年九月廿三日第百八十二號布告ヲ以テ左之通り罰例ヲ定ム

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付候事

○銃砲取締規則

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

▲明治七年十二月八日第三百三十二號布告ヲ以テ左ノ通り罰例ヲ増補ス

- 一 免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事

但書同前

▲明治八年六月廿八日第一百十一號達

今般銃砲彈藥取締ノ儀內務省へ管理被仰付候ニ付テハ追テ相達候儀モ可有之候得共差同キ從前規則ノ通り相心得取締

可致尤モ右規則中是ニテ陸軍省及ヒ各鎮臺等へ申出候分ハ總テ內務省へ可申出其他管理替ニ付牒觸ノ箇條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相達候事

▲明治十三年三月廿五日第八號布告

明治五年(正月)第二十八號布告鐵砲取締規則第二則中左ノ

一項増加候條此旨布告候事

一 免許商人ハ陸海軍卒士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃

並ニ其彈藥類ヲ買入レントスル片ハ買入願書ニ其賣主ノ

連書ヲ爲サシムヘキ事

▲明治十一年五月廿四日第十一號布告

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥雷管ニ限リ賣買手續左ノ通り相定候條此旨布告候事

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥ヲ買ハント欲スル時ハ其免狀若クハ免許証ヲ以テ彈藥賣買免許商人ニ示シ以テ其免許人タルヲ証スヘシ

彈藥賣買免許商人ハ右ノ免狀若クハ免許証ヲ認メ正確ナリトスル時ハ左ノ程限ニ照ラシ之ヲ賣渡シ其姓名及ヒ數量等ヲ詳記シ其管轄廳(東京ハ警視本署)へ届出ツヘシ

西洋形獵銃用

彈藥 藥散ハト
ロンノ類

貳千發

同上用

雷管

四千粒

火繩銃用
威シ銃用

火藥

壹貫目

室内銃用

雷管

壹萬粒

右一次賣渡シ最多ノ程限トス若シ一次此程限外ノ彈藥雷管ヲ買ハント欲スル時ハ銃砲取締規則第二則ニ從フヘシ

○度量衡改定規則

○明治九年二月十九日第拾七號布告

第一條 三器改定ニ付キ各地方ニ三器製作所並ニ賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌

○度量衡改定規則

所ニ於テ發賣為致從前ノ秤座秤座ハ同日ヨリ廢止候事

第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル

三月十五日ヨリ十二月二十五日マテニ右改所へ差出シ檢

査ヲ請ク可シ右期日テ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フル

ヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ觀察スヘキ事

但シ改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事但シ尺ハ尺杖等一時使用ノ為メ目盛致シ秤ハ半鳥半等

ヲ量ル為メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ秤ノ線鉄弦鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所へ差出スヘシ秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事

第五條 舊新器共檢印アルヲ賣拂度者ハ必ス賣捌所ニ可申出

但シ秤ノ錘皿又ハ秤ノ線鉄弦鐵等ヲ取離シ古鉄トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照ラ

○度量衡改定規則

シテ處斷スヘキ事

○牛馬賣買規則

○明治五年十一月四日第三百三十號布告

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内其區々ノ取計無之樣可致候事

別紙

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議之次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒拾其

段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ所置可致事

十申十月

大藏省

規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事

但シ壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限リ鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノキハ七匹以内貳枚ヲ所持スル者ハ拾四匹ニ限ル可シ其餘准之可申事

第二條 (明治七年四月二十日第四拾五號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス)

○牛馬賣買規則

一 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第三條 免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札壹枚ニ付壹ケ年稅金壹圓上納可致事

▲明治八年七月七日第百十五號布告ヲ以テ但書左ノ通り改正ス

但シ右稅金ハ毎年二月八月兩度ニ半額宛各管廳へ取立
租稅寮へ上納可致尤モ新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ

取立上納可致事

第五條 免許鑑札燒印並ニ押切判ハ雛形ノ通り其管轄所ニテ製造致シ各稼人共へ相渡可申事

但シ鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面詳細取調
右鑑札印鑑相添へ當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬
一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取
上免許稅十倍ノ科料可申付事

但シ密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ
取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

○牛馬賣買規則

第七條 取上牛馬拂代並ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行候ニ付諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

△明治七年十二月三日第百三十一號布告ヲ以テ左ノ通り第九條ヲ追加ス

第九條 一 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事

但免許鑑札借受ケ賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照テシ處分可致貸渡候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事

右ノ通規則相定候事

壬申十月

大藏省

○鳥獸獵規則

○明治十年一月廿三日第十一號布告

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノ爲メニスルテ遊獵トス

第二條 銃獵免狀ナキ者ハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クカ爲メニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所

○鳥獸獵規則

始名年齢ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ警視廳（舊ト内務省ノ處十四年九月十三日第四拾三號布告ヲ以テ改テ農商務省ト爲シ更ニ同年十一月四日第六拾一號布告ヲ以テ警視廳ニ改ム故ニ今此ニハ改正公布ニ從ヒ直ニ）其他ハ該地方管廳ヘ差
警視廳ト記ス其第六條モ亦同シ
出スヘシ

第四條 免狀ハ其効一期ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買
シ若クハ授受スルヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受クル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

一 職獵稅 金壹圓

一 遊獵稅 金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニ係リ免狀ヲ毀失スル時ハ速

カニ東京府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ届出ヘ
シ再ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ稅金ヲ納ムルニ及ハスト雖
モ手數料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀付與セサルヘシ

一 十六歳未満ノ者

一 白痴風癲等ノ者

一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ獵銃ヲ爲スヲ禁ス

一 都府市街ハ勿論衆人羣集ノ場所

一 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離

一 禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃挺ヲニ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置クヘシ

一作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許得タル者ハ此限ニアラス

第九條

獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍銃ヲ用フルヲ禁ス

▲明治十年十二月十七日第八十五號布告ヲ以テ左ノ如ク但書ヲ加フ

但開拓使管内ニ限リ和銃玉目拾匁以下ヲ用フルヲ得ヘシ

シ

第拾條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニ依リ已ムヲ得ス此時限ヲ伸縮スルキハ其理由ヲ農商務省ヘ届出ヘシ

第拾一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第拾二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帯スヘシ出獵中警察官吏區戸長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アルキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第拾三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害ト

○鳥獸獵規則

大ル片ハ第八條所示ノ如キ制札ヲ立テ其周圍ニ繩張又ハ
假面ヲ爲スヘシ

第拾四條 凡テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第拾五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ、職獵ノ免狀ヲ

受ケ遊獵スル者ハ、（一） 罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期內

銃獵ヲ禁スヘシ

第拾六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ証跡ヲ取り訴出ルキハ犯

人罰金ノ半ヲ賞トシテ與フヘシ

第拾七條 第拾四條第拾五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓

ヨリ少ナカラス貳拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

▲明治十年十二月十七日第八十五號布告ヲ以テ第十八條ヲ
追加ス

第拾八條 一開拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ
規則ニ遵フヘシ

○利息制限法

○明治十年九月十一日第六十六號布告

第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律
上ノ利息トス

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘ
キ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十

○利息制限法

(二割)百圓以上千圓以下百割ノ十五(壹割五分)千圓以上百分ノ十二(二割二分)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムルハシ

第三條 法律上ノ利息ノ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高チ定メサルハ裁判上無効トス然レモ所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ハス百分ノ六(六分)トス

第四條 第貳條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルハ總テ裁判上無効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ違フルハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干

ノ償金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキヲ約定スルコトアルハ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルハ之ニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

▲明治十三年七月七日司法省丁第十三號達

利息制限外ノ質入証書ニ戸長公証ノ件ニ付別紙ノ通法制部ヨリ通達有之候條爲心得此段相達候事

別紙

法制部ヨリ通達(明治十三年六月廿三日)

利息制限外ノ質入証書ニ戸長公証ノ件ニ付舊法制局ヨリ及

○利息制限法

說明置候處今般閣裁テ經テ左ノ通熊本縣ニ及回答候條爲心
得此段及通達候也

法制部ヨリ熊本縣へ回答

戸長ハ地所家屋等ノ書入實入ヲ公証スルノミニシテ利息ノ
制限ニ超ユルト否トニ關セザルモノトス

○遺失物取扱規則

○明治九年四月十九日第五十六條布告

第一條 凡ソ遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラズ
及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得
ルニ臨テ物主其場ニ就テ主タルヲテ証明スルニ於テハ直

チニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヲ得ス

第二條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分
明ナラサレハ之レヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內其
主ナキハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡ソ遺失者ハ其遺失スル物品ノ摸樣員數並ニ遺失
ノ日時場所等ヲ可成丈詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ
但シ得者ヨリ其返還ヲ得ルキモ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其
費用ヲ償ハシムルヲ得且ツ得者ニ報勞ノ爲メ其物價百
分ノ五ヨリ少カラズ貳拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ

○遺失物取扱規則

若シ物主得者ト其價額ヲ争フキハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條 凡ソ遺失物ヲ得ルニ物品盜贓ニ係ルモノハ直チニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止ニ其費用ノミヲ償ハシム

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ皈スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルキハ之ヲ地主ト中分セシム

但シ盜贓ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

第七條 凡ソ遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサルキハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヲ第貳條ノ如シ

第八條 凡ソ家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スルキハ律ニ照ラシテ處分ス

第九條 凡ソ逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ

○遺失物取扱規則

官ニ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ

第拾條 凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ

得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヲ私物ニ異ナルヲナシ

第拾一條 凡ソ警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失

物ヲ得レハ速カニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還附シ其主ナ

ケレハ之レヲ官ニ沒ス

第拾二條 凡ソ一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セ

ス並ニ官ニ沒ス

第拾三條 凡ソ公私債証書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以

テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第拾四條 凡ソ遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘

得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヲ証明ス

ルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照ラシテ處分ス

▲明治十年九月廿七日内務省甲第二十號布達

明治九年(四月)太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中

第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中ヲ

古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省ヘ届

出検査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ

係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人ヘ下付シ該物品ハ永ク博

物館ヘ陳列可致候條此旨布達候事

○遺失物取扱規則

但シ物品ハ先ツ掘出地名及ヒ形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫ス
ルモノヲ郵送シ其見込ミアルモノニテ遞送方相ヒ達候後
チ本文ノ通り可取計候事

○土地賣買讓渡規則

○明治十三年十二月三十日第五十二號布告

第一條 凡ソ所有ノ土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サント欲スル者
ハ(賣買讓渡)証文ニ地券ヲ添ヘ其地ノ戸長役場ニ差出シ
奥書割印ヲ受ケ之ヲ買受人又ハ讓受人ヘ附與スヘシ
但シ一筆ノ土地ヲ分割シテ奥書割印ヲ受ケント欲スル
者ハ其分界及ヒ坪數等ヲ詳記シタル圖面ヲ添テ差出ス

ヘシ

第二條 戸長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡奥書割印帳ヲ
備置キ奥書割印ヲ請フモノアレハ地所質入書入奥書割印
帳ヲ見合セ登記ナキニ於テハ(賣渡讓渡)証文ニ奥書割印
ヲナスヘシ

第三條 買受人又ハ讓受人(賣渡讓渡)証文ヲ領収スルキハ
地券(書換裏書)願書ニ双方連印ノ土地券ヲ添ヘ戸長役場
ヲ經テ管轄廳ヘ差出スヘシ

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルコトヲ
得ルト雖モ地租並ニ地方稅ハ地券ニ記載セル姓名ノ者ヨ

○土地賣買讓渡規則

リ之レテ徴収スヘシ
但シ地券紛失ノ際下附願出ルモ亦地券ニ記載セル姓名
ノ者タルヘシ

第五條 死亡者失踪者ノ家督相續若クハ遺産相續及ヒ離縁
戸主ノ家督相續ニ由リ土地ヲ讓受ケタル者ハ親族（親族
ナキモノハ近隣ノ戸主）ト連印ノ上戸長役場ヲ經テ地券
（書換裏書）願書ヲ管轄廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ
遺産相續ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ戸長役場迄之ヲ差出サ、
ル者ハ証印稅五倍ノ科料ニ處ス
但シ本條期限内ニ地券（書換裏書）願書差出ス能ハサル

事由アリテ之レヲ届出ル者ハ此限ニ在ラズ

○土地分割取扱手續

○明治十五年一月三十一日第二號布達

明治十三年（十一月）第五拾貳號布告土地賣買讓渡規則第壹
條但書ノ儀ニ付左ノ取扱手續ヲ定ム

第一條 賣買讓渡等ノ爲メ一筆ノ土地ヲ分割シテ與書割印
ヲ受ケ地券書替ヲ請ハント欲スルモノハ境界ヲ明瞭ニシ
テ其反別ヲ正シ地位ノ優劣ニヨリ全筆ノ地價ヲ分配シ其
書面ヲ戸長役場ニ差出スヘシ

第二條 戸長ハ實地ヲ檢シ不都合ナキハ與書割印ヲ爲シ

○土地分割取扱手續

若シ反別實價配分上不適當ノモノアリト認めル場合ニ於テハ其旨ヲ説明シ願人承服セサルキハ其意見ヲ付シ郡區役所ヲ經テ管轄廳ニ具申スヘシ

第三條 該廳ニ於テ前條ノ具申ヲ受ルキハ更ニ實地ヲ審査シ分界ヲ檢シ坪數地位ニ適スル地價ヲ定メ其旨本人ニ申達シ與書割印ヲ受クルノ手續ヲナサシムヘシ

但賣買讓渡ニシテ自己ノ都合ニヨリ一筆ヲ分割スルモ前條々ノ例ニヨルヘシ

○地所質入書入規則

○明治六年一月十七日第十八號達

先般田地永代賣買被差許候ニ付自今質入書入致シ候節ハ左ノ規則ノ通り可相心得事

第一條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ証據トシテ貸主(金主)ニ地所ト証文トヲ渡シ貸主其作徳米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充候テ地所ノ質入ト云フ

第二條 金穀ノ借主(地主)ヨリ返濟スヘキ証據トシテ貸主(金主)ニ地所ト引當ノ証文ノミヲ渡シ借主ノ作徳米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充候ヲ書入ト云フ

第三條 金穀ノ(借主)地主ヨリ返濟スヘキ証據トシテ貸主(金主)ニ地所引當ノ証文ノミヲ渡シ借主ヨリ其利息トシ

○地所質入書入規則

ヲ米又ハ金ヲ拂ヒ候テモ亦書入ト云フ

第四條 地所ヲ質入ニ致シ候節ハ地券ヲモ相渡シ可申其年限ノ儀ハ三ケ年ヲ限ルヘシ尤モ三ケ年以下期限取極候節ハ勝手タルヘク且ツ年限取極候廉ハ判然証文面ニ記載致シ置可申事

但書入ノ儀ニ地券ヲ相渡スニ及ハス其年限長短共本文ノ限ニアラサト雖モ双方相對ニテ取極候年限ハ本文同様証文面ニ記載致シ置可申事

第五條 (明治十二年第七號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス) 質入又ハ書入ノ地所期限ニ至リ貸主借主相談ノ上金穀ヲ

返サスシテ地所ヲ引渡候節ハ舊地主ヨリ金主ヘ可引渡旨別紙ニ相認メ其地ノ戸長加判ノ上金主ヨリ地券相添ヘ確認ノ証ヲ可願出事

第六條 質入ノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致筈ニ付テハ地租諸役トモ総テ金主ニテ可相勤事 但其段管轄廳ヘ届出証書可差出事

第七條 書入ノ地所ハ地主ニテ耕作致シ候儀ニ付地租諸役トモ無論地主ヨリ可相勤事 但管轄廳ヘ届出ニ不及候事

第八條 管轄違ノ者或ハ同管轄ト雖モ懸隔ノ地所ヲ質ニ取

○地所質入書入規則

候節ハ其現地ノ村町へ金主ノ名代人相定置其地租諸役トモ差支無之様可爲相勤事

第九條 (明治七年第六號布告ヲ以テ左ノ通改正ス) 質入又ハ書入証文ニハ必ス其村町戸長ノ與書証印ヲ取ル可シ其町村戸長役場ニハ與書割印帳ヲ備へ置証文ノ與書割印ヲ願出ルトキハ帳面ト証文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ與書ヲ爲スヘシ若シ戸長ノ與書並ニ割印ナキ証文ハ質入又ハ書入ノ証據ニ不相成ニ付キ右証文ヲ以テ訴出ルニ於テハ負債主財産分散ノ時債主他ノ債主ニ對シ先取ノ特權ヲ失ヒ獨リ質入又ハ書入ナキ金穀貸借ノ處分ヲ可受事

但戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長與書調印スヘシ

第拾條 (明治七年第五拾貳號布告ヲ以テ左ノ通改正ス) 一ヶ所ノ地ヲ二重三重ニ書入候儀ハ不相成候得共若シ第壹番ノ金主へ引當ニ入レ置キ候事ヲ第貳番ノ金主承知ノ上ニテ地所代價ノ餘分ヲ見込又其地所ヲ引當ニ借添へ致シ候儀ハ不苦尤モ借主身代限ノ處分ニ相成候節ハ右地所糶賣ノ代金ヲ以テ先ツ第壹番ノ者へ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第貳番ノ者へ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡可申若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第壹番ノ金主へ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘第貳番ノ金主へ引渡スヘキ

○地所質入書入規則

元利ノ金數ニ不足ナルトキハ其不足ノ分ヲ償フコト並ニ第
三番以下ノ金主ニ償フコトハ平常引當ナキ債主ニ身代限償
却ノ例ニ隨ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ
引當可申事

但第貳番ノ金主ニ受取候証文ニハ地所代價ノ餘分ヲ見
込借添候旨ヲ書載可申事

第拾一條 地所ハ勿論地券ノミナリトモ外國人ニ賣買質入
書入等致シ金子受取又ハ借受候儀一切不相成候事

第拾二條 (明治七年第五拾貳號布告ヲ以テ左之通改正ス)
質入年季中天災ニテ地所流亡等其地ノ全形ヲ失フニ至ル

トキハ地券ハ消滅スル理ニ付貸主ヨリ借主ニ對シ外地所
又ハ物品ヲ代リ質ニ差入サセ証文書替ヲ求ムルコト得ヘ
シ若シ代リ質ニ差入ルヘキ地所物品等之レナキハ訴訟
ノ末身代限リノ處分ニ及ラヘク又池成野地成等ニ變換シ
或ハ闕崩等ノ爲メニ其地ノ幾分ヲ失フキハ變換ノ模様及
殘存ノ大小ニ應シ規則ニ基キテ地券書替願出ヘキ儀ニ付
若シ其變換殘存ノ地ハ貸金石高ノ償ヲ爲スニ足ラサルト
見込場合ニ於テハ貸主ヨリ借主ニ對シ外地所又ハ物品ヲ
増質ニ差入サセ証文書替ヲ求ムルコト得ヘシ若シ増質ニ
差入ヘキ地所物品等無之キハ是亦訴訟ノ末身代限リノ處

○地所質入書入規則

分ニ及フヘキ事

但貸主相對示談ハ格別ノ事

第拾三條 質入ノ地所年期中天災ニ因リ荒蕪ト相成ハ貸主(金主)ヨリ起返ノ見込ヲ定メ借主(地主)承諾ノ証書ヲ取リ其管轄ヘ可願出尤モ入費ハ借主ヨリ償フヘキ事

但借主起返ノ入費ヲ出スル能ハサルトキハ証書ヲ以テ其地所ヲ貸主ニ引渡シ可申尤モ相對示談ノ處置ハ格別ノ事

第拾四條 當今質入又ハ書入ニ致シ置年期中ノ分ハ總テ前文規則ニ照準シ當七月限り証文相改メ可申事

右之通相定候事

▲明治六年第百六拾七號布告ヲ以テ第拾五條ヲ追加ス

第拾五條 是迄質入書入ニ致置候分ハ前約ノ年期据置不苦

尤証文面等前文規則ニ觸候廉ハ總テ相改可申事

▲明治七年第七拾六號布告ヲ以テ第拾六條ヲ追加ス

第拾六條 從前取結ヒタル質入書入約定ニテ明治六年七月

三十一日前三期限ヲ過去リタル分ニテ債主ニ於テ貸金返済方ニ付延期ノ勘辨ヲ加タル者ハ來十月三十一日迄ニ其地所々管ノ戶長役場ニ届出地所質入書入規則第九條ニ準シ奥書割印ヲ受クヘシ若シ右日限内奥書割印ヲ受ヌシテ

○地所質入書入規則

後日其証書ヲ以テ訴訟ニ及フトキハ質入書入ノ証據ニハ
相立サルニ付裁判上糶賣分配ノ時ハ先取ノ權利ヲ失ヒ質
入書入ナキ貸借同様ノ處分ニ及フヘキ事

▲明治七年五月二日內務省乙第三十三號達

本年第六號公布地所質入書入規則第九條改正文中戶長ノ與
書証印ハ戶長又ハ副戶長實印ヲ爲押割印ハ戶長役場印ヲ相
用候儀ト可心得此旨相達候事

但役場印無之候ハ、彫刻申付有出來迄ハ戶長實印ヲ換
用可致事

○地券証印稅則

○明治十四年五月廿五日第三十號布告

地券証印稅左ノ通り改正明治十四年七月一日ヨリ施行シ從
前ノ証印稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

地券ニ記セシ

券狀一通ニ付

金高拾圓未滿

三錢

金高(拾圓以上貳百圓未滿)

千分ノ五
即拾圓ニ付五錢

金高(貳百圓以上五百圓未滿)

壹圓

金高(五百圓以上千圓未滿)

壹圓貳拾五錢

金高(千圓以上貳千圓未滿)

壹圓五拾錢

金高(貳千圓以上五千圓未滿)

貳圓五拾錢

○地券証印稅則

金高(五千圓以上壹万圓未満)

三圓七拾五錢

金高壹萬圓以上

五圓

左に掲クルモノハ券面代價ノ有無ニ拘ハラズ券狀一通

ニ付三錢トス

代換授與並ニ水火盜難ニヨリ地券書換

荒地其他無代價地券授與書換

荒地起返及ヒ開墾歛下年季明其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數

筆地ヲ一筆地ニ合併等ニテ所有主變換セサル地券書換

○隱田切開切添地等處分規則

○明治九年五月十二日第六十七號布告

隱田切開切添地等ノ儀ニ付テハ明治五年(九月)大藏省第百
貳拾六號布達地券渡方規則中第貳拾壹條及ヒ明治六年(九
月)第三百拾五號ヲ以テ及布告候趣モ有之候處更ニ左ノ通
リ被相定候條此旨布告候事

第一條 隱田切開切添地ノ此布告以前ニ係ルモノ該府縣地

租改正濟マテニ申出ルルハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相

定若シ之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律

ニ照シ處分スヘシ

但シ此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟ノ前後ヲ不問

律ニ照シ處分スヘシ

○隱田切開切添地等處分規則

第二條 廉落殘歩ハ此布告ノ前後ヲ論セテ該府縣地租改正
濟マテニ申出ルルキハ其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ
之ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ律ニ照ラ
シ處分スヘシ

第三條 官簿ニ記載アル地並ニ記載ナシノ雖モ從來官山官
林用地附屬地等ノ証アル地ヲ私ニ田畑宅地等ニ侵墾セシ
モノ此布告以前ニ係レモノハ該府縣地租改正濟マテニ申
出ルルキハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ其
者へ素地相當代價ヲ以テ可拂下其民有トナシ難キモノハ
直チニ返地セシメ事情ニヨリテハ更ニ借地差許大儀モ之

アルヘシ

第四條 前條侵墾地々租改正濟後ニ至リ發覺スルモノ及ヒ
此布告以後ニ係ル侵墾地ハ渾テ律ニ照ラシ處分スヘシ

第五條 前條ノ地ハ舊藩縣ヨリ開墾願濟ノ分タリテ未ダ地
代金ヲモ納メスシテ未着手ノモノハ直チニ返地セシメ其
民有地トシテ差支ナキモノハ更ニ相當代價ヲ以テ其者へ
可拂下其地代金ヲ納メスレバニ着手スルモノハ直ニ其者
ノ所有ト定ムヘシ

第六條 凡ソ民有ニアラサル地ヲ私ニ賣買或ハ質入ト爲ス
者此布告以前ニ係ル分地租改正濟マテニ申出ルモノハ其

○隱田切開切添地等處分規則

罪ヲ問ハス其民有地トナシ差支ナキモノハ賣買並ニ流質
地共買得者及ヒ質取主ヘ其儘無代價ニテ下渡其民有地ト
ナシテ差支ナルモノ並ニ質地年限中ノモノハ官有地ニ編
入スヘシ此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟シ前後ヲ不
論律ニ照シ處分スヘシ

○脱税ノ爲メ土地ヲ欺隠スル者處分方

○明治十五年七月廿四日第三十四號布告
脱税ノ爲メ土地ヲ欺隠スル者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰
金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隠年間ノ租税ヲ追徴ス
但シ地租改正ノ初年以前ニ遡ルコトヲ得ス

其罪ヲ犯シ自首スル者ハ罰金ヲ免ス其追徴スヘキ租税ハ仍
ホ之ヲ納メシム

○建物書入質規則及ヒ賣買讓渡規則

○明治八年九月三十日第四百十八號布告
諸建物書入質入規則並ニ賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條來
ル十二月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

建物書入質規則

第一條 金穀ノ借主又ハ預リ主ヨリ返濟スヘキ証據トシテ
(貸主預ケ主)ニ對シ引當トナス所ノ建物ノ圖面ト証文ト
ニ片長ノ公証ヲ受ケタル者ヲ(貸主預ケ主)ニ渡シ置キタ

○脱税ノ爲メ土地ヲ欺隠スル者處分方
○建物書入質入規則及ヒ賣買讓渡規則

ルヲ建物ノ書入質ト云フ

第二條 書入質ト爲ス建物自身所有ノ地所ニ建テ在ルトキハ書入質証文ニ自身持地ノ建物ナルヲ記入スヘシ又借地ニ建テ在ルトキハ書入質ヲ爲スモノ其地主ニ請ヒ其地主ニシテ貸地タルヲ証スルノ奥書ヲ爲サシムヘシ若シ借地ノ建物ニシテ地主ノ奥書ナキ証文ハ書入質ノ効ナキニ書入質ナキ借用証文ト看做スヘシ

▲明治十年第六號布告ヲ以テ左ノ通り但書ヲ追加ス

但官有ノ借地ニ建テ在ルトキハ其所屬管廳ニ請ヒテ其貸地タルヲ証スルノ奥書ヲ受クヘシ

第三條 金穀ノ(借主預リ主)ヨリ建物引當ノ証文ニ建物ノ

圖面トテ建物ノ在ル地ヲ管轄スル戸長役場ニ差出シ戸長ノ奥書割印ヲ受クルヲ公証ヲ受クルト云フ

第四條 建物書入質ノ証文ニ添フタル圖面中ニ書入質ト爲ス所ノ建物ノ圖ハ朱引朱字ト爲シ書入質ノ外ナル建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲スヘシ(第一號書式ヲ見合スヘシ)

第五條 戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ヲ備ヘ置キ証文ノ奥書割印ヲ願出ルトキハ其大旨ヲ帳面ニ記入シ而シテ帳面ト証文トニ番號ヲ朱書シ割印ヲ押シ奥書ヲ爲シ圖面ニモ同シ番號ヲ朱書シ割印ヲ押スヘシ

○建物書入質規則及ヒ賣買讓渡規則

若シ戸長不在ノ節ハ其旨ヲ記シ副戸長奥書割印スヘシ

第六條 建物ヲ以テ金穀借用又ハ預リノ引當ト爲シタル証文ニテ前條ノ規則ニ背キ公証ヲ受ケサル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ(借用預リ)証文ト看做スヘシ

第七條 (明治八年第九拾九號布告ヲ以テ左ノ通改正ス) 此規則施行以後建物書入質ノ借用証文又ハ預リ証文ニハ必ス返済ノ期限ヲ定ムヘシ若シ其期限ヲ定メサル者ハ書入質ノ効ナキニ付書入質ナキ借用預リ証文ト看做スヘシ
第八條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ借用金穀又ハ預リ金穀ニテ返済期限ノ定メナキ証文ヲ所持スルモノハ明治九年二月廿八日迄ニ金穀(借主預主)又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入質ノ証文ニ改ムヘシ若シ(借主預主)又ハ其相續人証文ヲ改メサルキハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フヘシ

但シ明治九年四月三十日ヲ以テ訴人發途ノ期ト定メ其訴人ノ住所又ハ寄留ノ地所ト裁判所トノ距離每八里ニ一日ノ猶豫ヲ與フ

第九條 此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ引當ノ金穀借用証文又ハ預リ証文ヲ所有スルモノハ返済満期ニ

○建物書入質則規及ヒ賣買讓渡規則

至ルト至ラサルトニ論ナク明治九年二月廿八日迄ニ金穀
(借主預リ主)又ハ其相續人ニ掛合此規則ニ從ヒタル書入
質ノ証文ニ改ムヘシ(若シ預リ主借リ主)又ハ其相續人証
文ヲ改メサルトキハ明治九年四月三十日迄ニ建物ノ在ル
地ヲ管轄スル裁判所ニ訴フヘシ

但書前同斷

第拾條 建物ノ在ル地ヲ管轄スル裁判所ニ於テハ原告人ノ
訴狀ヲ受取タル日ヨリ三日内ニ裁判所ヨリ被告人ノ建物
ノ在ル地ノ戸長ニ對シタル報知狀ヲ原告人ニ下付シ速ニ
戸長ニ送達セシムルコト右ノ報知狀ニハ何(府縣)管下(住

居寄留)何某ノ訴訟ニ因リ何大區何小區何番地ノ建物ヲ
書入質ト爲ス証文ニ公書スルコトヲ差留ムル旨ヲ記載スヘ
シ而シテ其訴訟落着ニ至リシ日ハ公書ノ差留ヲ解クコトヲ
速ニ戸長ニ報知スヘシ

第拾一條 第八條及ヒ第九條ノ規則ニ背キ明治九年五月一
日以後ニ至リ此規則施行以前ニ契約シタル建物質入又ハ
引當ノ金穀(借用預リ)証文ヲ所有スル者ハ書入質ノ効ナ
キニ付書入質ナキ(借用預リ)証文ト看做スヘシ

第拾二條 一棟ノ建物ヲ二重三重ニ書入質ト爲スコトハ嚴禁
ナレモ若シ第一番ノ金主ヘ書入質ト爲シタルコトヲ第二番

○建物書入規則及ヒ賣買讓渡規則

ノ金主承諾ナレハ建物代價ノ餘分ヲ見込ニ又其建物ヲ書入質ニ借添ト爲スコヲ得ヘシ尤借主身代限ノ處分ニ至ルキハ右建物糶賣ノ代金ヲ以テ第壹番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡スヘシ若シ糶賣ノ金高キ以テ先第壹番ノ金主ヘ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金第貳番ノ金主ヘ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スルキハ其不足ノ分ヲ償フコトハ平常書入質ナキ貸主ニ身代限ノ償却ノ例ニ從ヒ外物品糶賣代價ノ内ニテ相當ノ割賦ヲ以テ引渡スヘシ

但シ第貳番ノ金主ニ渡シ置ク書入質ノ証文ニハ建物代

價ノ餘分ヲ見込ニ借添タル旨ヲ書載スヘシ

第拾三條 書入質ノ爲シタル建物焼失流亡等ニ至リシキハ建物ノ所持主又ハ代理人ヨリ遲シトモ七日内ニ其趣ヲ書面ニ記シ戸長役場ニ届出ツヘシ戸長役場ニ於テハ建物書入質記載帳ノ朱書番號ニ引合セ朱筆ヲ以テ點合ヲ爲シ其傍ニ焼失流亡等ノ趣キヲ略記シ年月日ヲ記シ戸長ノ實印ヲ押スヘシ(第三號書式ヲ見合スヘシ)

第拾四條 書入質ノ建物焼失流亡等ニ至リシキハ貸主ヨリ借主ニ對シ代リ質ヲ受取ルコトヲ求メテ爲スコヲ得ヘシ若シ借主代リ質ヲ出スコヲ肯ハズ又ハ出シ能ハサルキハ

○建物書入質規則及ヒ賣買讓渡規則

借入金穀返濟期限未滿内ト雖モ貸主ヨリ借主ニ對シ元利返濟ヲ求ムルノ訴ヲ爲スコト得ヘシ

建物賣買讓渡規則

第一條 自身所有ノ地ニ建テ在ル建物ヲ賣渡シ又ハ讓渡シ
ヲ爲サント欲スル者(賣渡讓渡)証文ト圖面トニ戸長ノ與
書割印ヲ受ク可シ又借地ニ建テ在ル建物ノ(賣渡讓渡)証
文ニハ其地主ニ請ヒ地主ヨリ貸主タルコトヲ証スルノ與書
ヲ受ケタル上ニテ戸長ノ與書割印ヲ受クヘシ

▲明治十年第三拾八號布告ヲ以テ左ノ通り但書ヲ追加ス
但官有ノ借地ニ建テ在ルキハ其所屬管應ニ請ヒテ其貸地

タルコトヲ証スルノ與書ヲ受クヘシ

第二條 建物ノ買受ケ又ハ讓受ケヲ爲サント欲スル者ハ自
身又ハ其代人建物ノ在ル地ノ戸長役場ニ至リ建物書入質
記載帳ヲ見合シタル上其(賣渡讓渡)ノ証文ヲ受取り然シ
テ後ニ戸長役場ニ至リ戸長又ハ副戸長ノ面前ニテ何大區
何小區何番地ノ何番ノ建物ヲ何某ヨリ(買受讓受)タル旨
ヲ書入質記載帳ニ記入シ年月日並ニ苗字名ヲ記シ實印ヲ
押スヘシ(第四號書式ヲ見合スヘシ) (明治十年第六十號
實印ヲ押スヘシノ下若シ此手續ヲ爲サ
ル云々ノ六十字ヲ削除ス故ニ略ス)

○建物書入質規則及ヒ賣買讓渡規則

願出ルキハ是亦建物書入質記載帳ニ記入スルコト及ヒ証文ニ與書シ圖面ニ割印スルコト建物書入質規則第五條ニ準シ公証ヲ與ルノ手續キチナスヘシ

第四條 書入質ト成リタル建物ヲ(買受讓受)タル者ハ其建物ノ書入質ト爲リタル金數ノ償却ヲ引受クヘシ但シ(買受讓受)人ニ於テ其建物所有ノ權ヲ拋棄スルトキハ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受クルニ及ハス

第五條 第四條ノ場合ニ於テ戶主ノ後ヲ受ケタル相續人ハ前戶主ヨリ讓受ケタル建物所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受クヘシ (括弧内朱書)

第一號 書式美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ同シキ紙ヲ用コヘシ

建物ノ圖 朱引ノ建物ヲ書入質ト爲スルハ

紙ノ上 第一番ヨリ第三番マテ合三棟ヲ書入質ト爲スル

下左右ト 第一番 何坪

點線ノ 第二番 土藏 何坪

外一寸ヲ 第二番 二階造 本屋 何坪

明ケ置クヘシ 府 何大區何小區何番地 住居 何縣 何大區何小區何番地 寄留 建物持主 何某 殿 何某印

圖面ト共ニ質取主ニ渡シ置クヘシ(但シ圖面ノ寫一枚ヲ戶長役場ニ出シ置クヘシ)

○建物書入質規則及ヒ賣買讓渡規則

第四號

書式 (建物書入質記載帳ニ建物ノ買受又ハ讓受ノコトヲ書込ムノ法)

何年何月何日、

、

、

、

、

何年何月何日何大區何小區何番地

ノ何番ノ建物ヲ何某ヨリ讓受申候

也

何大區何小區何番地
住居
寄留

何某印

○富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方

○明治十五年五月廿四日第貳拾五號布告

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保

助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡ソ富籤賣買ノ牙保若シハ補助ヲ爲シタル者ハ一

月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

第二條 凡ソ富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未ダ

拂ハサルトテ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ

○富籤賣買ノ牙保補助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處分方 五〇七

四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及ヒ他人ヨリ讓リ受ケル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但シ初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

○傳染病豫防規則

○明治十三年七月九日第三十四號布告

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸室扶私、赤痢、實布埜利亞、發疹室扶私及痘瘡ノ六病ヲ云フ

但シ六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

○傳染病豫防規則

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ハ府廳及ヒ警視本署ニ届出ツヘシ但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直チニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ケナシ

▲明治十三年十二月十四日第五十四號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ增加ス地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治癒死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認めルハ其性狀ヲ記シテ速クニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

但(明治十三年十二月十四日第五百四號布告ヲ以テ但書ヲ削除ス故ニ畧ス)

第四條(明治十三年十二月十四日第五拾四號布告ヲ以テ削除ス故ニ畧ス)

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院製作所等ニ於テ傳染病者ノルハ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フ可シ

第七條 醫師並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシム可シ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者ナル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ

但シ患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後ハ相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

▲明治十五年八月廿六日第四十七號布告

明治十三年(七月)第三拾四號布告傳染病豫防規則第八條中病名票貼付ノ儀當分之ヲ施行セス

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシム可シ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス

○傳染病豫防規則

但火葬ハ尋常ノ焼場ニ於テシ其埋骨ハ改葬スルモ妨ナ

シ

第拾一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ニ用ヒ又ハ受授ノ賣買スルヲ許サス

第拾二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道、及ヒ厠園、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第拾三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルキハ此

規則ニ從フテ處分スヘシ

第拾四條 虎列刺流行ノ勢猛劇ナルキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師、衛生官、吏、警察官吏、郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員ト爲シ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

▲明治十五年九月一日第四拾八號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備スル病ヲ診斷スルキハ總テ檢疫委員ニ届出ツヘシ但シ本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

○傳染病豫防規則

第拾五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

▲明治十四年十月七日第五拾八號布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサル様遮斷シ得ヘキモノト見認ムルハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スヲ得

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スヲ得

腸室扶私病

第拾六條 腸室扶病流行ノ際ハ第九條第拾一條及ヒ第拾二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第拾七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第拾一條及ヒ第拾貳條ヲ適用スヘシ

實布埤里亞病

第拾八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第拾壹條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第拾九條 明治十三年十二月十四日第五拾四號布告ヲ以テ

○傳染病豫防規則

左ノ如ク改正ス。發疹室扶私病者アルトキハ第拾條第拾壹條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第拾貳條第拾三條第拾四條及ヒ第拾五條ヲ適用スヘシ

第貳拾條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニフラサレハ他用ニ供スヘカラズ
痘瘡病

第貳拾一條 (明治十五年九月一日第四拾八號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 痘瘡病者アルキハ第拾條第拾壹條及ヒ第貳拾條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムベカラズ其流行ノ際ニハ第拾貳條ヲ適用スヘシ

罰則

第貳拾二條 醫師衛生委員此ノ規則ニ違背シタルキハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第貳拾三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第貳拾四條 人民此規則ニ違背シタルキハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

○行旅死亡人取扱規則

○明治十五年九月三十日第四十九號布告

第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルキ所在戶長ハ之ヲ

○行旅死亡人取扱規則

最寄墓地へ假埋葬スヘシ

其死倒變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルキ戸長ハ死亡ノ狀況并ニ埋葬其他死亡人ニ属スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長へ通報スヘシ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルキハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルキハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルキ戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄揭示

場へ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 死亡人所持ノ金銀ハ埋葬其他死亡人ニ属スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ但シ本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルヲ能ハサルキハ直チニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルキハ之ヲ本籍へ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ

○行旅死亡人取扱規則

年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ
地方稅雜収入ニ組入ルヘシ

○外國人遊步規程

○明治三年閏十月十二日太政官達

東京在留外國人遊步規程別紙之通ニ候間此旨相達候事

別紙

東京居留外國人遊步ノ期程別圖紙面之通新利根川又江戸川
口ヨリ北ノ方金町迄夫ヨリ西ノ方水戸街道千往宿大橋迄夫
ヨリ隅田川ヲ登リ上古谷上郷迄夫ヨリ小室村高倉村小矢田
村萩原村宮寺村三木村田中村諸村ヨリ朱引之通日野渡場迄

夫ヨリ玉川口迄ヲ以テ限リトシ右區内ハ外國人共遊步御差
許之儀ニ付キ勝手ニ徘徊イマスヘク就テハ彼我禮義モ異リ
殊ニ彼方貴人モ手輕ニ旅行イタシ候振合ニテ在々ノ人民未
タ外國人之情態ヲモ熟知セザル故接對方ニ於テ不都合ノ筋
ハ勿論不作法等有之候テハ不相濟儀ニ付末々迄相互ニ心附
兼テ御布告之趣心得違無之様可致事

一外國人遊步之節若途中ニオイテ休息又ハ薄暮ニオユヒ止
宿等相望候ハ、所役人方へ案内イタシ差支無之場所ニ候ハ
、望通取計可遣旅籠代ノ儀ハ相對テ以請取可申事
一外國人出先ニオイテ差掛リ人足雇度旨申出候ハ、相當之

○外國人遊步規程

賃錢請取身元相分リ居候モノ差出候様可致事

一外國人共門塚等アル場所ハ勿論招キニアラヌシテ人家へ
猥リニ不立入筈ニ候得共若シ庭構園地等一見イタシ度旨
申聞候ハ、立入不苦場所へハ案内致スへク差支有之場所
ハ相斷可申事

一社寺ハ庶人立入拜禮致候場所迄立入候儀ハ不苦靈秘ニイ
タシ庶人猥リニ不爲立入場所其餘廟所墳墓又ハ境内々切
之場所ハ相斷可申尤彼方墾望ニテ其主司ニオイテモ強テ
差支無之候ハ、臨櫓之取計ヲ以差許候トモ不苦事

一東京開市場之外諸村ニオイテハ外國人ト商賣取引不相成

筋ニ候得共通行之節聊ノ土産物等買得ノ儀相望候ハ、賣
渡候テ不苦萬一抜荷密商等ノ所業ニ及ヒ候ハ、屹度咎可
申付候若抜荷密商等見出候歟又ハ企候モノ有之ヲ承リ込
候ハ、速ニ東京府又ハ其支配之役所へ可訴出其品ニ寄賣
美可被下事

一宗門之儀前々ヨリ之御法度相守彌以堅ク可相制若異宗門
之噂イタシ又ハ申勸候モノ等有之候ハ、其段早速其支配
之役所へ入可訴出事

一阿片煙草吸喫致候儀ハ嚴禁ニ付萬一竊ニ相用候歟又ハ所
持イタシ候歟或ハ外國人ヨリ密ニ買取候モノ及見聞候ハ

○外國人遊步規程

、前同様可訴出事

一 外國人ニ對シ亂暴狼藉ニ及ヒ候テハ禮義ヲ失ヒ候耻辱ノ
 ミナラス第一御威光ニモ相拘リ以ノ外ノ事ニ付兼テ御布
 令モ有之今後右様心得違ノ者ハ無之筈ニ候得共町村ニオ
 イテモ兼テ手筈申合セ置萬一狼藉ニ及候者有之節ハ所ノ
 モノ打寄擲取若シ手ニ餘リ候ハ、打果シ候トモ不苦若シ
 取逃シ候ハ、地元町村ヨリ時刻ヲ不移其支配之役所並東
 京府へ口上ヲ以成トモ手分ケイマシ迅速ニ可届出候其餘
 詮議ノ手掛ニ可相成儀等及見聞候ハ、聊之事ニテモ不隱
 置是又早々可申出此品ニ寄夫々御褒美可被下事

附亂暴ヲ受候外國人ノ國名姓名等相分リ候丈ケ承札シ

可申立且當人ハ手當行届候丈ケ介抱致シ精々心附可遣

萬一絶命ニ及候ハ、大切ニ守護イタシ差圖相持可申事

右之條々急度可相守若シ後日之引合テ遁ンカクメ及見聞候

儀ヲ押隠シ追テ顯ル、ニオイテハ當人ハ勿論役人迄モ夫々

嚴重咎可申付候條心得違無之様可致自今以後毎年一度ツ、

其所役人ヨリ前書之趣小前之モノへ爲讀聞無遺失様可相守

モノ也

別紙圖面略ス

▲明治八年十一月二日太政官第百八十九號達

○外國人遊歩規程

外國人遊歩規程内ニ於テ旅籠渡世ノ者ニ限リ外國人止宿差
許候外國人止宿セシメ候節ハ宿主ヨリ戸長又ハ扱所へ可届
出若シ病氣療養ノタメ長ク止宿セシメ候節ハ日數七日毎ニ
管轄廳へ届出候様可致此旨相達候事

▲明治十一年九月九日太政官第四十號達

明治八年十一月第百八拾九號ヲ以テ外國人遊歩規程内止宿
ノ儀ニ付相達置候處自今旅籠渡世ノ者ニアラスト雖モ兼テ
懇親ノ外國人ヲ招泊セシメ又ハ疾病其他止ムヲ得サル事故
アリテ宿泊セシムルハ苦シカラヌ尤戸長又ハ扱所へ届クル
ハ前達ノ通可相心得此旨相達候事

○訴訟

○治安裁判所及始審裁判所權限

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス

但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事
件ハ勸解スルノ限リニアラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價格百圓未満ノ訴訟
ニ付キ始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ルヘカラサカモ
ノヲ裁判スルヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價格百圓以上并ニ第

○治安裁判所及始審裁判所權限

三條ニ掲ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付キ始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判

ニ對スル控訴ニ付キ終審ノ裁判ヲ爲ス

但シ控訴手續ハ第二編ニ示ス處ト同シ

(追加) 始審裁判所ハ人民ヨリ郡區長ニ對スル訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

○控訴裁判所權限

控訴裁判所ノ權限ハ許多ノ變革ヲ經今日ニ至テハ左ノ二權限ニ過キス

第一 控訴裁判所ハ管轄内始審裁判所ノ始審裁判ニ服セスシテ控訴スル者ヲ覆審ス

第二 人民ヨリ院省府縣ニ對スル訴訟ヲ裁判ス

但シ院省府縣ニ對スル訴訟ハ司法卿へ奏請ノ上之ヲ受理ス

○大審院權限

第一條 大審院ハ民事刑事ノ上告ヲ受ケ上等裁判所以下ノ不法ナル者ヲ破毀シテ法憲ノ統一ヲ主持スル所トス

第二條 審判ノ不法ナル者ヲ破毀スルノ後他ノ裁判所ニ移

○控訴裁判所權限 ○大審院權限

シテ之ヲ判決セシム又便宜ニ依リ大審院自ラ之ヲ判決スル事ヲ得

第三條 已ニ他ノ裁判所ニ移シテ之ヲ判決セシムルノ後其裁判所又大審院ノ旨ニ循ハサル時ハ大審院更ニ自ラ之レヲ判決ス

第四條 陸海軍裁判所ノ裁判權限ヲ越ユル者ハ其裁判ヲ破毀シテ之ヲ當然ノ裁判所ニ付ス

第五條 (略之)

第六條 内外交渉民刑事事件ノ重大ナル者ヲ審判ス

第七條 (略之)

(追加) 人民ヨリ院省府縣ニ對スル訴訟ノ上告ハ司法卿ハ奏請ノ上告ヲ受理ス

○裁判所取締規則

第一條 訟庭ハ訴訟口詰必ス出席シ訴訟人ヲ順序ニ呼込ミ裁判官ノ命ニ從ヒ失敬又ハ紛聞多事ヲラサル様其取締ヲ爲スヘキ事

第二條 原告人ヲ始メ代言人等總テ訟庭ニ出ル者ハ呼込ノ次第ニ從ヒ沈黙整列シ裁判官出席スレハ各々起テ禮ヲ爲スヘシ

第三條 原告被告共其事情ヲ餘濫ナシ幾回モ詳細ニ陳述スヘ

○裁判所取締規則

シトイヘ互ニ先ツ發言スル者ノ言終リタル後ニ非サレ
ハ更ニ其言ヲ發スヘカラス

第四條 凡ソ進退動作ハ輕躁ニ涉ラス言語ハ憤怒高激ニ涉
ラス諄々下シテ其事情ヲ陳述シ且裁判官ニ對シテ尊敬ヲ
致スニ注意スヘシ

第五條 前條ニ記載シタル事ヲ守ラス裁判官ニ對シ尊敬ヲ
欠ク者アルハ裁判官直ニ譴責ヲ加フヘシ

第六條 譴責ヲ加フヘキ者アルハ其裁判ヲ中止シ犯則ニ
關係ナキ者ハ一旦扣所ニ退カシメ然ル後犯則ノ者ヲ譴責
スヘシ

第七條 裁判官ヲ言ル者アルハ前條ノ如ク其裁判ヲ中止
シ之ヲ斷獄課ニ付シ本律ヲ科ス可キ事

第八條 裁判ノ時公聽ヲ許サレタル者ハ人々皆沈黙敬聽ス
ヘシ

但裁判官審問ノ際公聽ノ者若シ紛聞ニシテ審問ノ妨礙
アリト思量スルハ便宜ヲ以テ訴訟口詰ニ命ジ公聽ノ
者ヲ退カシムヘシ

○勸解手續

夫レ勸解ハ權利者義務者ノ願意ニ隨ヒ其證據物ノ有無ニ拘
ハラス双方ノ私情ヲ酌料シ説諭ヲ加ヘ和解ニ至ラシムルヲ

○勸解手續

主トスル者ナルガ故ニ其出願ノ手續ニ至リテモ亦簡便テ主
トシ假令無筆文盲ノ者クリモ其情實ヲ陳述スルニ於テ差問
ナキ様ニナスヲ要ス故ニ其訴狀モ只半紙ヲ二ツ折ニシテ其
前半面ニ出願ノ要領ヲ掲クルヲ以テ足レリトス今其例ヲ示
サンニ貸金催促ノ如キニ於テ通常左ノ縦形ノ如ク認ムルモ
ノナリ

元金何圓

何府何郡何町何番地

年月日貸付

華士族平民

年月日期限

原告

何 某 印

利金何圓

合金何圓

貸金催促之勤解願

請求高

(若代人ナレハ右ノ次ニ代人ノ住所身分ヲ書シ署名捺印スヘシ但本人ハ捺印スルニ及ハス)

何府何郡何町何番地

華士族平民

被告

何 某

何年何月何日

凡ソ勸解ヲ出願スルニ付テハ右ノ如ク其要領ヲ舉グルヲ要スレモシ簡畧ニ記載シ難キ訴訟例ヘハ地處境界論ノ如キニ於テハ目安ト原告人ノ氏名ヲ書スルヲ以テ足レリトス
勸解出願スルニ付テハ訴狀ハ通例一般ニ要スル者ナレモシ無筆文盲等ニテ認メ難キ時ハ治安裁判處ニ出頭シ其情實ヲ陳述スルヲ得ヘシ

勸解ヲ仰クニハ代人ヲ差出スヲ得ヘシトイヘテ勸解ハ其
 爭論ノ始末ヲ本人ヨリ直ニ聞取ルニアラサレハ事情ヲ盡シ
 難ク隨テ説諭ノ上和解ニ至ルヘキ事柄ヲ却テ整ハサル様ノ
 一アルカ故ニ可成丈本人自ラ出頭セサルヘカラス但シ本人
 疾病等不得已事故アル片ハ親族ノ内ヲ以テ代人トシテ出頭
 セシムルヲ得ヘシ斯ル時ニハ本人ヨリ代人願ト委任狀ト
 テ代人ニ渡サ、ルヘカラズ又勸解ニハ代言人ヲ用ユルヲ
 得ス代人トシテ差出ス事ヲ得ヘキノミナリ

代人願ノ書式

代人願

何府何郡何村何番地
何縣何區何村何番地

身分華士族或ハ平民

何 某

委任ヲ受クル人
 姓名ヲ書ス

右ハ今般自分ヨリ何(府縣)何(郡區)何(町村)何(番地)
 (華士族或ハ平民)何之誰ヘ相係ル(本文ハ原告タル片
 ノ代人願ナルニ付被告タル片ニハ「何府縣何郡區何町
 村何番地華士族或ハ平民何某ヨリ自分ヘ相掛ル」ト書
 スヘシ)何々(訴名ヲ書クヘシ)貸金催促ナレハ「貸金催促」
 ト書ス)之御勸解出願仕候ニ付テハ自分出頭可仕之處
 病氣ニ付キ出頭難仕候ニ付前書親戚何某ヲ代人ニ相頼
 度(若シ親族中代人ナキ時ハ「出頭難仕」ノ下ニ「且親戚
 中相當ノ代人モ無之ニ付前書何某ヲ代人ニ相頼度」ト
 書スヘシ)然ル上ハ右同人ヨリ申上候事柄並ニ御請仕事

○勸解手續

柄共後日ニ至リ自分ヨリ異議申上間敷候間何卒代人
儀御許容相成度別紙診斷書相添此段奉願上候也

府郡何問
何縣何區何村何番地

年月日

何某印

〔本人ノ名ヲ書スヘシ〕

某治安裁判所長
判事補何某殿

右ノ代人願ニハ東京府下ニ於テハ區長或ハ戸長ノ奥印ナク
凡可ナシ他ノ府縣ニ於テハ之ヲ要スル者ナキニアラス注
意スヘシ又委任狀書式ハ左ノ如シ

委任狀

拙者儀病氣ニ付何某ヲ以テ都理代人ト相定メ拙者ノ名
儀ニテ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

一何々ノ事ハ委任スヘキ權限ヲ分項記載スヘシ例ハ
貸金催促ノ原告タルキハ「拙者ヨリ住所身分氏名ハ
相係ル貸金催促勸解願ニ付キ某裁判所ニ於テ辨論一
切ノ事」ト書スヘシ若シ被告タルキハ住所身分氏名
ヨリ相係ル貸金催促勸解願ニ付キ某裁判所ニ於テ答
辨一切ノ事」ト書スヘシ

右代理委任狀仍而如件

住所身分

年月日

何某印

本人ヨリ委任ヲ受ケタル代人ニ於テハ代人願診斷書並ニ委

〇勸解手續

任狀寫テ訴狀ニ添ヘテ之ヲ裁判所ニ呈スヘシ
 裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理セラレタル片ハ被告人ヘノ呼出狀
 ナ下ケ渡サ、ルカ故ニ原告ハ被告ニ之ヲ送達スヘシ而シテ
 右呼出ニハ番號記載シレハ宜シク之ヲ留メ置クヘシ掛官ハ
 出訴ノ當日ヨリ定マルアリ或ハ其翌日定マルモアリテ各裁
 判所ニ依リテ其成規異ナレハ出頭スル者ハ其心得ニテ少シ
 シ注意スレハ直ニ之ヲ知ル事ヲ得ヘシ
 凡ソ何レノ時ヲ問ハス裁判所ニ出ツルニハ必ス名刺ヲ持參
 スヘシ而シテ名刺ノ數ニ至リテハ東京府下僅々ノ裁判所ス
 ラ尙ホ異同アルヲ免レサレハ況シテ全國無數ノ裁判所ニ於

テハ其數モ亦一定セサルヘシ茲ニ其大略ヲ舉ケソニ東京府
 下ニ於テハ概テ半紙ニツ切ニ認メタル名刺ニ枚ヲ要シ他府
 縣ニ於テハ半紙四ツ切ニ認メタル名刺一枚ヲ要スルテ通例
 トナスカ如シ恪テ名刺ノ認メ方ハ左ノ通り

名	何年第何號 <small>(新クニ訴フル時ハ) 只新訴ト書スヘシ</small>
刺	御掛何某殿 <small>住所</small>
縦	何々ニ付頭 <small>身分</small>
形	年月日時

已ニ勸解ノ日時定マリタル片ハ原被各其當日ニ裁判所ニ出
 頭シ前ニ掲ケタル名刺ヲ裁判所ノ受付ニ差出シ置クヘシ若

○勸解手續

シ又被告トナリテ裁判所ヨリ召喚テ受ケテ出頭シタル片ハ
召喚狀ヲモ名刺ニ副ヘテ差出スヘシ出頭ノ上ハ訴訟日詰ノ
呼込ニニ應シテ訟庭ニ入ルヘシ
訟庭ニ入リタル上原被告裁判官ノ勸解説諭ニ依リ双方示談
相整ヒ濟口トナリタル片ハ左ノ如キ書式ニ從テ其趣意ヲ認
メ差出スヘシ

第何號 何郡何町何番地

御掛何某殿 身分

原告人 何 某

何々之勸解願濟口御届

何郡何町何番地

身分

被告人 何 某

「此處ニ濟口ニ至リタル事由ヲ書スヘシ例スレハ貸金催
促ナラハ請求高ノ内何圓ハ當日受取何圓ハ証文ニ直ス
等其濟口トナリタル事由ヲ書スルヲナリ」
右私共ヨリ何々ノ義勸解奉願候處御説諭ニ基キ前書ノ
通濟方相成候間此段御届申上候以上

右

年月日 原告人 何 某 印
被告人 何 某 印

某治安裁判所長
判事補何某殿

○勸解手續

又金錢上ノ勸解願ニテ被告人ニ於テ身代限ヲ以テ濟方ナリ
スルハ左ノ如キ書式ニ從ヒ其事由ヲ認ムヘシ

第何號 御掛何某殿 身代限濟方對談書

一元金何圓

一利金何圓

合金何圓

内

一金何圓

御勸解中抵當家屋公賣代受取

差引

殘金何圓

滞金

私共貸金催促之儀御勸解奉願候處御説諭ニ基キ被告人
何某儀償却方相辨候處金圓調達兼候ニ付前書滞高身代

限ヲ以テ濟方致候筈示談行届候此上右御處分被成下度
此段奉願候也

何郡何町何番地

年月日

原告人

何 某

印

何郡何町何番地

被告人

何 某

印

某治安裁判所長

判事補何某殿

右ノ裁判所へ差出スルハ區役所或ハ戸長役場へ宛テタル封
書ヲ下附サル、モノナリ此時左ノ如キ請書ヲ呈ス

何號

掛何某殿

御請書

一何區役所或ハ戸長役場へノ封書

壹通

○勸解手續

五四七

右正ニ請取申候至急區役所へ差出可申候依テ御受書如件

住所

年月日

何 某 印

某治安裁判所長

判事補何某殿

右ノ手續ヲナシタル上財産調へモ濟ミ身代限處分揭示後六
十日間ヲ過キ財産公賣ノ上原告人ニ於テ金圓ヲ請取リタル
并ハ左ノ如キ書式ニ從ヒテ認メタル書面ヲ出スヘシ

御 請 書

一金何圓

右ハ何郡區町村へ係ル貸金催促ノ末身代限ヲ以テ濟方
可仕旨原被連印ヲ以テ申上置本日財産公賣代金前書ノ
金額御下ケ渡シ相成正ニ受取申候仍テ御請書如件

住所

年月日

原告人

何 某 印

某治安裁判所長

判事補何某殿

若シ又被告ニ於テ原告ノ請求スル處ヲ拒ミ之ニ應セサル片
ハ其勸解ハ不調トナルナリ如此場合ニ於テハ裁判官ノ命ニ
依リ或ハ証書ノ寫シ或ハ其請求ノ趣意書ヲ差出シ不調籤ヲ
乞ヒ請クヘシ不調籤ハ後日出訴ノ時ニ於テ入用ナル者ナレ

○勸解手續

ハナリ

証書寫ノ認メ方ハ左ノ如シ

証書寫

何々(此處ニ証書ノ全文ヲ寫載ス)

右寫之通ニ相違無御座候

住所

年月日

何 某 印

某治安裁判所長

判事補何某殿

趣意書ノ認メ方ハ左ノ如シ

趣意書

自分ヨリ今般何某へ掛リ何々ノ勸解出願仕候趣旨ハ左ニ陳述可致

(此處ニ勸解出願ノ趣旨ヲ書載スヘシ)

右之通ニ有之候也

住所

年月日

原告人

何 某 印

某治安裁判所長

判事補誰某殿

右ノ証書ニ不調ノ付箋ヲナシ下附サレタル片ハ左ノ如ク認メタル受書ヲ差出スヘシ

不調箋御受書

勸解手解

何年何號
住所
御掛何某殿

身分

被告人 何 某

右之者へ相掛り何々之儀御勸解願上候處ニ付厚ク御説被成下候得共示談不行届候ニ付其段証書寫御附紙ノ上御下ケ渡相成正ニ奉受取候依テ御請書如件

住所

年月日

原告人

何 某 印

某治安裁判所長

判事補何某殿

右ニ述ヘタル所ハ出願ノ日ヨリ結局ニ至ルマテ故障ナシ濟ミタル者ナレトモ或ハ被告人ノ不參シテ出庭セサル如キ事不

少或ハ又假令ヒ被告トナルモ無余儀事ニテ當日召喚ニ應シ難キコアリ或ハ示談濟口チナサンカ爲メニ猶豫ノ期限テ乞フコアリ其他種々ノ故障生シ來ル者ナレトモ一々茲ニ掲載シ難レハ只々其ノ大体ニ基キ臨機應變之ニ當ラレシコチ希望スルノミ今茲ニ其主タル者ヲ掲載セン
原告又ハ被告人ニ於テ不參或ハ遲參セントスル時ハ其趣ヲ出頭時刻前ニ願出ツヘシ

遅刻(不參)御届

番號

何郡何町何番地

御掛何某殿

原(被)告

何 某

○勸解手續

右ハ何郡區町村番地何ノ某ハ掛ル(被告ナレハ)何ノ某
ヨリ掛ル(ト書ス)何々ノ件ニ付キ本日出頭當日ニ付キ
私儀例刻出頭可仕處何々(事故又ハ病氣ノ次第ヲ記ス)
ニテ出頭致兼候ニ付何日何時迄御猶豫被成下度此段奉
願上候也

右

年月日

何 某 印

某治安裁判所長

判事補何某殿

又無届ニ付不參シ始末書ヲ差出ス時ハ左ノ書式ニ從フテ其
旨ヲ認ムヘシ

始末書

番號

住所 身分

御掛何某殿

何 某

何宗

本月何年何月

右何郡區町村番地身分何某ヨリ係ル何々之件ニ付キ昨
幾日例刻出頭可仕之處何々ニテ(其事故ヲ書ス)無届不
參仕候段奉恐入候
右之通り相違無之候也

右

年月日

何 某 印

某治安裁判所長

判事補何某殿

又被告無届ニテ不參シタルトキ原告人ニ於テ召喚願ヲ差出

○勸解手續

ス書式ハ左ノ如シ(引立願ヲ乞フ書式ハ次節ニ記シアルヲ以テ略ス)

被告御召喚願

番號

住所 身分

御掛何某殿

被告

何 某

右者本日御呼出(或ハ延期)當日不參仕候ニ付明幾日本人御呼出被下度奉願候也

何郡何町何番地

年月日

原告人

何 某 印

某治安裁判所長

判事補何某殿

又原被示談行届キ延期ヲ乞フ時ニハ左ノ書式ニ從ヒ其旨ヲ

認ムヘシ

延期願

番號

住所

御掛何某殿

原告

何 某

住所

被告

何 某

右何々(其訴名ヲ記ス)御勘解奉願候處今般双方示談行届キ候間來ル何月何日迄延期御猶豫被成下度此段奉願候也

年月日

右

何 某 印

右

何 某 印

○勘解手續

五五七